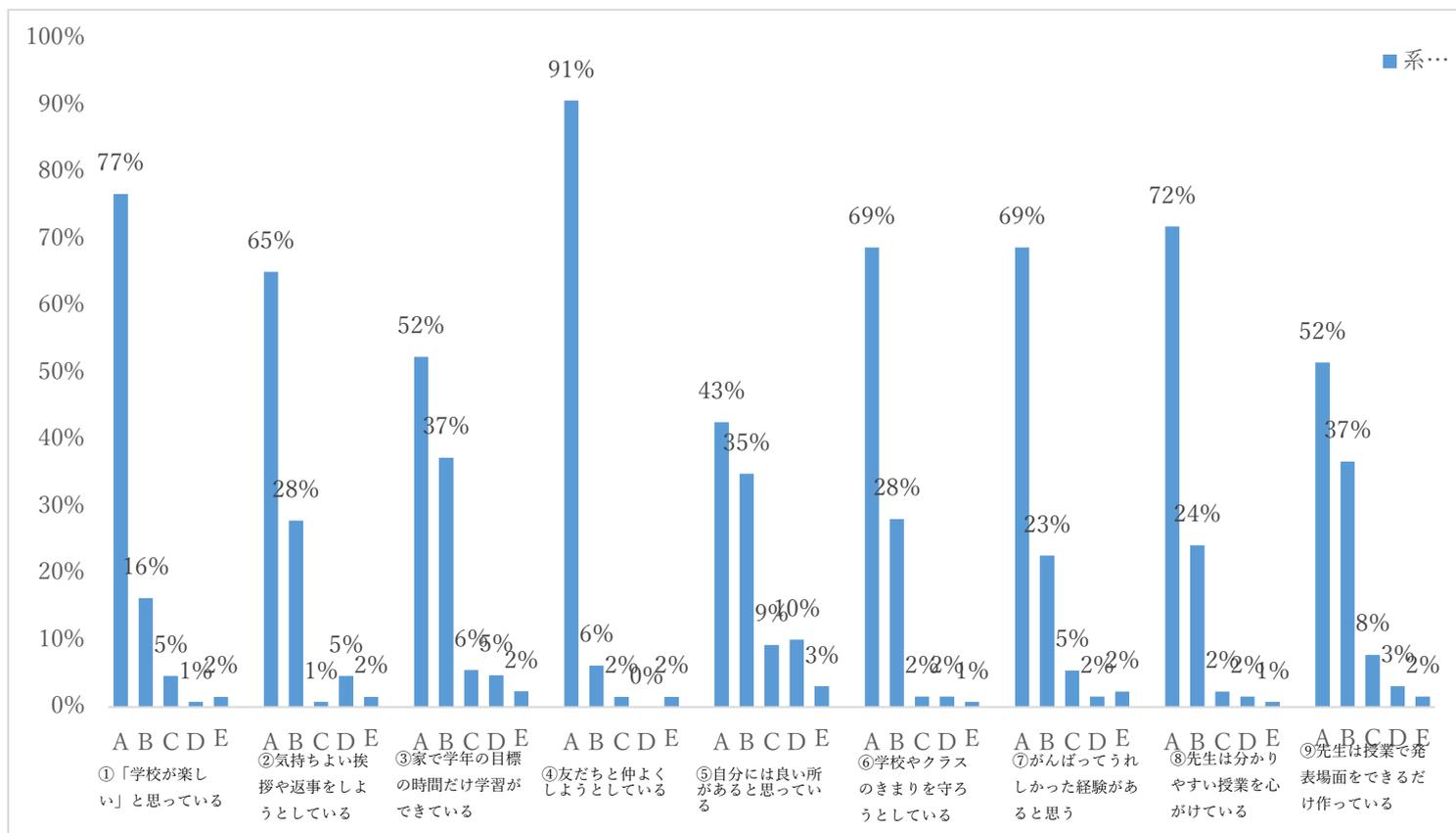


令和4年度 学校評価まとめ（中間報告）

上田市立長小学校

1学期に実施した学校評価アンケート（児童）の結果について報告いたします。

凡例として、A：そう思う B：だいたいそう思う C：どちらでもない D：余りそう思わない E：そう思わない と標記します。



【考察と今後の方向】 ◎今後の方向

- ・①は、学校が楽しいと感じている児童は約90%であり、学校生活に満足している児童が多い。一方、DEの児童も3%いることから、満たされない思いをもっている児童もいる。
◎児童の日々の学校生活の様子に、一人ひとりの児童に全職員で寄り添えるような学校体制づくりをさらにつくっていきます。
- ・②は、ABを合わせると、93%おりでよい挨拶ができていると感じている。朝の玄関では、気持ちのよい挨拶の声が多数響いている。
◎よい姿については、大いに認めていき、児童の自信につなげたいと思います。これからも、児童に気持ちのよい挨拶、相手に伝わる返事について考えさせる指導をしていきます。
- ・③は、A,Bを合わせると、約90%であり、家庭での学習にしっかりと取り組んでいる児童が多い。D,Eの児童が7%いることから、家庭学習の仕方に困っているのではないかとと思われる。
◎家庭での学習の仕方について丁寧に指導をし、家庭と連携をとって取り組んでいきます。

- ・④は、約 97%の児童が、友だちとなかよくしたいという気持ちを持ち、努力をしている様子が見られる。しかし、E の児童も 2%おり、なかよくしたいという気持ちはあるが、なかなかうまくいかないということもあるかと思われる。
◎友だちとの関わり方について考えさせる場面（道徳、学活等）を作り、よい関わり方について指導をしていきます。
- ・⑤は、A,B を合わせると 78%である。多くの子が自分のよさに気づき、自己肯定感を持つことができているが、DE の児童も 13%いる。
◎児童の自己肯定感を高めることができるような学級経営をしていきます。そのために、適切な場面で、ほめたり、認めたりし、お互いを認め合える場をつくっていきます。
- ・⑥は、A,B を合わせると 97%である。しかし、普段の子どもたちの様子から廊下の歩行等をみても、ルールを守れていない姿がある。
◎行動と意識のずれ、職員との捉え方のずれはやむをえないことであるが、気持ちの良い学校生活という面からみて、決まりを守る良さをぜひ感じ取らせていきたい。職員間で問題を共有、検討をしていき、決まりを守れないというマイナスイメージを強調するだけの指導にならないようにしていきます。
- ・⑦は、A B を合わせると約 90%である。達成感を感じたことがある児童が 9 割いることが分かる。一方 CDE の児童が約 10%存在する。
◎どんな事柄で達成感を感じているのか、達成感の内容を調べる必要がある。達成感の感じられていない児童にも目を配り、一人ひとりに目標を持たせ、達成感を感じられるよう働きかけや指導の工夫をしていきます。
- ・⑧は、A,B を合わせると 96%である。児童も大変がんばっている様子がある。教師も分かりやすい授業を目指して、努力工夫をしているがそれが児童に届いていると考えられる。
◎授業の中で、教師の児童への質問の言葉が適切であったか考える必要がある。授業の分かりやすさについては、今後も職員同士の研修を深め、児童が主体的に学ぶ授業のあり方について改善をしていきます。
- ・⑨は、A が約 52%と少なめである。A,B を合わせると約 89%となる。教師側が発表する場を設定し、児童もそれに対し、頑張っって自分の考えを発表しようとしていることがわかる。
◎今後も、発表の場を設定するなど授業の組み立てを工夫していきます。さらに、全校集会、児童会等で発表する機会をつくっていきます。

今後とも、よりよい学校づくりを目指していきます。どうかよろしくお願ひします。